

旧華頂宮邸活用検討協議会ニュース vol. 2

旧華頂宮邸活用検討協議会 平成 23 年 3 月発行

平成 22 年 10 月に先進活用事例の視察を行い、活用検討を進めています！

第3回から第5回の会議の内容

第3回 協議会ニュース、先進活用事例の視察の検討について（平成 22 年8月 15 日）

協議会ニュースの作成、先進活用事例の視察についての検討を行いました。

第4回 先進活用事例の視察について（平成 22 年 10 月9日）

大谷美術館（旧古河庭園）、旧安田楠雄邸の現地視察を行いました。管理状況や周辺環境など似た環境をもっており、見て学ぶものがありました。それぞれの活用方法や運営についてのヒアリングを行いました。

旧古河庭園



現地視察を終えた委員の感想

- ◇ 活用・運営方法の仕方は、様々であることを実感できた。
- ◇ 近隣のボランティアの方の努力によりこの環境を守っていることが分かった。

旧安田楠雄邸



第5回 旧華頂宮邸の活用イメージについて（平成 23 年1月 17 日）

先進活用事例の視察内容について意見交換を行いました！！



旧古河庭園

旧安田楠雄邸

管理・マネージメント

- ◇ 大谷財団が管理を行っている。
- ◇ 売店、喫茶コーナーやトイレがしっかり整備されていて、売店ではグッズも販売してた。
- ◇ 建物の写真撮影はできなかった。
- ◇ 車いすの人のためにスロープがあった。
- ◇ 利用者の人数をコントロールするために予約制だった。

- ◇ たてもの応援団（ボランティア）の方が管理を行っていたけど、ボランティアの場合はマネージメントが大変そう。
- ◇ 公開していないときは、建物の管理が難しそう。常勤スタッフの存在は大きい。
- ◇ 見学のルールが徹底されていた。

イベント

- ◇ 披露宴を行っているが、インターネットで検索できないことが、価値を高めている感じがした。
- ◇ 年に数回コンサートを行っているようだ。
- ◇ イベントの企画・運営は第三者が行っているようだ。

- ◇ イベントは頻繁に行っている印象があった。
- ◇ 民家に囲まれているから、演奏会を行う場合は事前に説明するなど、周辺への細やかな気遣いが必要かもしれない。
- ◇ 東京芸術大学の学生が企画面のサポートをしていた。

建物案内

- ◇ パンフレットがあれば、ガイドなど人の説明に頼らなくても良さそうだ。
- ◇ 予約制で案内していた。
- ◇ 各部屋の前にプレートがあると良い。

- ◇ 安田邸の入館料（維持管理協力金）は高いように感じた。
- ◇ 有料ツアーはガイドに価値があると思う。
- ◇ ボランティアの方がガイドのためによく勉強していた。建物の説明マニュアルをつくる必要があるかもしれない。
- ◇ 建物や住んだ人の物語が面白かった。建物の説明はとても大事だ。



旧華頂宮邸の活用イメージ



旧華頂宮邸の活用イメージについて意見交換を行いました!!

特徴と伝え方

建 物

- ◇ 建物の物語を作る必要があるかもしれない。
- ◇ 住んでいた人の話、谷戸の話など、人に伝えられるだけのエピソードがほしい。

谷 戸

- ◇ 谷戸の中にあることが視察先と違っていた。その特色を出しながら、谷戸の魅力、宅間ヶ谷のエピソードを伝えられたらいい。
- ◇ 谷戸を味わう→庭を味わう→建物を味わう。

発信の方法

- ◇ 駅から遠いことをメリットに変えて、他の施設と連携したり、コースを作るのも良い。
- ◇ 静かな場所性や谷戸に住んできた人の歴史、鎌倉らしさを伝えたい。
- ◇ “古都鎌倉”と“近代別荘文化”を一緒に見られるから、鎌倉は古いお寺だけでないことをアピールできる場かもしれない。
- ◇ 「谷戸を大切に」という心をはぐくむのもいい。

公開の方法

- ◇ 少ない人数で魅力を味わってほしいので、少人数のツアー（谷戸・庭・建物）を行うのも良い。
- ◇ 時間で見学を限定するのはどうだろうか。

公開する資料

- ◇ 多くの資料や題材を集め、テーマごとに伝えるのはどうだろう。
- ◇ 撮影に使われたことを見せどころにするとストーリーづくりになる。

公開の主体・人材

- ◇ 単発ではなく、継続して活用する方法があるといい。
- ◇ 現在ボランティアをしてくださっている方、これからボランティアに興味を持つ人々に参加していただけたらいい。



* 活用イメージは現在検討中です *

旧華頂宮邸コラム

今回は「宅間ヶ谷と景観」についてです。

宅間ヶ谷とは、旧華頂宮邸がある奥深い谷間のことを言います。谷名の由来は、鎌倉宅磨派の始祖と見られる為久・為行の一系がこの地に定住し、特に南北朝から室町時代にかけて活躍しているため、「宅磨派」に付会しての地名と考えられています。このことから宅間ヶ谷は、鎌倉時代の芸術文化の発祥の地とも言えることができるかもしれませんね。

旧華頂宮邸は、こうした貴重な谷戸の景観を活かした佇まいをしています。

宅磨派・絵仏師の一派。宅磨為遠を祖とし、鎌倉時代には京都中心の系統と、鎌倉中心の系統とが活躍。宋画の様式を取り入れて仏画に新生面を開いた。東寺所蔵「十二天図屏風」など

次回の旧華頂宮邸コラムは、「華頂宮家」についてです。
お楽しみに♪

お知らせ

旧華頂宮邸の建物公開について

平成23年度の建物公開は4月9日（土）、10日（日）及び10月1日（土）、2日（日）です。



ベランダからの宅間ヶ谷

旧華頂宮邸の装飾模様

今回ご紹介するのは、基礎部に張られた「鉄平石」の模様です。鉄平石は安山岩の一つで、通常は自然風に張られますが、整形にデザインされているのがこの建物の特徴です。ぜひ、足元にも注目してみてくださいね！

